

竹山地区

竹山地区別計画推進委員会

地域 竹山1～4丁目

緑区の南側に位置し、地区の南側は保土ヶ谷区に隣接しています。

昭和40年代に開発された竹山団地が中心にある丘陵地の住宅街です。この地区は、竹山中公園、竹山二丁目公園、竹山南公園等をはじめ、緑豊かな街並みが続きます。

緑区の中では最も高齢化が進んでおり、年少人口比率も最も低い地区となっています。

<主な関連施設>

最寄駅：鴨居駅（JR横浜線）

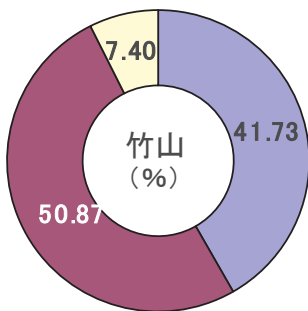
震災時避難場所（地域防災拠点）：竹山小学校

地域ケアプラザ等：横浜市鴨居地域ケアプラザ

<年齢区分別人口>

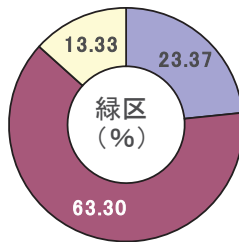
平成30年(2018年)9月末

人口比

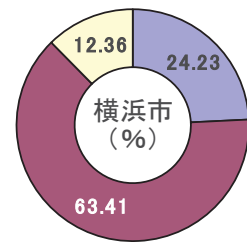


75歳～	1,393人
65～74歳	1,472人
15～64歳	3,492人
6～14歳	347人
0～5歳	161人
合計	6,865人

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15～64歳) □年少人口比率(0～14歳)



75歳～	20,959人
65～74歳	21,270人
15～64歳	114,390人
6～14歳	15,061人
0～5歳	9,037人
合計	180,717人



75歳～	454,366人
65～74歳	452,709人
15～64歳	2,374,255人
6～14歳	285,140人
0～5歳	177,762人
合計	3,744,232人

地区別計画推進委員会の開催状況

第1回

平成30年9月12日

19:00～21:00

竹山ホール

- ・第3期計画について
- ・情報共有、意見交換
- ボランティアセンターの体制と活動実績
- 広報の充実
- 認知症カフェ「ぶらり」のその後

通信No.15 発行

第2回

平成31年3月4日

19:00～21:00

竹山ホール

- ・認知症カフェ「ぶらり」活動報告
- ・地区別目標についてグループワーク

通信No.16 発行

緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」平成30年度地区別計画推進状況



竹山地区



子ども・子育てと向き合う

竹山小学校の児童数は、現在約240人（H30.5月時点）
この15年で半減しています。

昔から変わらず、地域の皆さんに愛されている竹山の子どもたち。
でも、人数がどんどん少なくなっている今だからこそ、
これまで以上に「竹山で生まれ育って良かった」と思っ
てもらえるように、地域全体で子ども・子育てを見守れるまちに
していくためにできること、必要なことはどんなことでしょうか。

議論と

取組の検討が
始まりました！



種やかに、ゆるやかに、続いています。「カフェぶらり」

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくりのひとつとして、
一昨年度から動き出した認知症カフェ「ぶらり」の取組。

OPENから2年目を迎え、レコード機器も新たに備え付けられ、
懐かしい曲に耳を傾けながら、思い出話に花を咲かせたり、
美味しいコーヒーを楽しんだり、素敵な時間が流れています。

竹山地区社会福祉協議会が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方
ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「ふれあいさろん竹多久」で、
2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、竹山地区社協HP等まで。



ぜひ、
お立ち寄り
くださいね♪

※「認知症サポーターキャラバン」の
マスコットキャラクター



（写真：「カフェ ぶらり」の様子）

竹山地区別計画推進委員会は下記の各団体等の代表者などで構成しています。 ※順不同

●連合自治会 ●各自治会 ●地区社会福祉協議会 ●民生委員・児童委員 ●保健活動推進員

竹山地区別計画推進委員会



竹山地区別計画推進委員会
平成30年10月発行 第3期-No.5 (通算 No.15)
＜連絡先＞事務局 緑区保険年金課内 TEL: 930-2336

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」 竹山地区別計画推進委員会通信

今年度1回目の委員会を開催～今回のメインテーマは



竹山の子ども・子育てと向き合う part①

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画を推進していくために、推進3年目・今年度第1回推進委員会が9月12日竹山ホールで開催されました。

今回は、主に目標3「世代間・活動団体間の交流を進めます」にそって、「竹山の子ども・子育て世代との交流や支援」をどう深めていくことができるか、竹山池での活動、竹山地区の現状や小学校・保育園の先生のお話などから状況を共有しました。その様子をご紹介します。



委員長 大谷竹山連合自治会長

竹山地区は、高齢化率が40%にのぼる一方、人口減少、特に少子化も深刻。竹山小学校の児童数も15年前と比較して約半分、250人程になった。竹山でも親子で参加してくれる行事はたくさんあるが、他にも何か地域でできることはあるか。「竹山の今後」を考えていくためにも、皆さんの立場から様々なご意見をいただきたい。



ご存じですか！？竹山の子ども「いま」

👉 15歳未満の子どもは約 **530人**

👉 人口の **7.6%** (区平均 13.6%)

(H29.9 末時点・横浜市統計ポータルより)
高齢者5人に子どもが1人の割合です。ここ10年程をみても毎年20~40人程減少し続けています。このままいくと十数年後には百数十人ほどになる予測もあります。

(緑区地区別暮らしのデータ集より)
小学校も単級の学年が増えてきていて、「1~6年生までクラス替えがない学年」も出てくる可能性があります。

昔からかわらず、地域の皆さんに愛されている竹山の子どもたち。

でも、人数がどんどん少なくなっているいまだからこそ、これまで以上に「竹山で生まれ育って良かった」と思ってもらえるように、地域全体で子ども・子育てを見守れるまちにしていくためにできること、必要なことはどんなことでしょうか。議論がスタートしました。



(裏面に続く)

竹山地区の現状と取組について～意見交換の一部をご紹介します～

「竹山商店街にかつての活気を取り戻そう」ということで、手始めに池をきれいにしようと“かいぼり”を実施。小学生に声掛けし、池の魚釣り、環境調査のような活動を平成27年に開始した。

家族同伴の釣り大会や4年生とは環境学習も行っている。子どもが参加すると保護者も参加してくれるので世代間交流も生まれている。昨年オープンした「池活クラブ」(★)には、学習塾に通っていないような、自由な時間が多い子どもたちも集まってくれている。

今後も、イベント形式で**子どもたちが気楽に集まれる機会を提供してあげたい。難しく考えず、気楽に考え企画することが大切**では。



吉川連合自治会専任副会長



三上竹山小学校長

(★) コミュニティスペース(竹山商店街内)
みんなの池活クラブ

- 毎週月～土 / 8～17時
- 飲み物代 / 80～250円



竹山の子どもたちは地域の皆様に本当に愛されていると感じている。ただ、児童が減少している中、「クラス替え＝環境の変化」が少ないため、様々な人と関わり合う機会を大切につくっていきたいと考えている。地域の皆さんの見守りや関わりの中で豊かに育てていきたい。

保育園でも育児の相談を受けたりしている。第二子が生まれたりすると、環境が変わって育児に悩んだり苦労をされる親御さんもいる。そんな時に、ご近所の方のちょっとした見守り、子守りの協力で救われた人もいた。子育てを取り巻く環境も変化してきている。これまで以上に地域の皆で見守り、支えあえる地域にしていけたら。



大倉竹山保育園長

最後に、大谷委員長からは、子どものつながりを持ちつつ、親世代もどうしたら地域の活動に参加してもらえるか。親世代がもっと集まれる、語らえる場、気軽に相談や交流できる場があってもいいのではないかと。それで、親がつながれば子どももつながる。また例えば、いわゆる「子ども食堂」のような場をイメージしても、ただ大人が子どもに提供するのではなく、子どもや親と共に創る、子どもの創造性を育めるような場づくりが大事ではないかと。

本日の議論を踏まえて、今後も検討していきたい。とまとめがありました。

竹山地区でのその他の取組状況について ～一部をご紹介します～

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり
穏やかに、続いています。 **カフェ ぶらり**



竹山地区社協が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「**ふれあいさろん竹多久**」で、2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、竹山地区社協HP等でもご案内しています。

日頃から、そして災害時の助け合いのために**更新**します。

防災ささえ愛カード



今回で4年振り・3回目の更新となります。自治会を通じて配布・回収します。御理解・御協力をお願いします。

くみどりのわ・ささえ愛プラン - 竹山地区別計画推進委員会構成団体等>

連合自治会、単自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、小学校、保育園 等 計27名

竹山地区別計画推進委員会
平成31年3月発行 第3期-No.6 (通算 No.16)
<連絡先>事務局 緑区保険年金課内 TEL:930-2336

第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」 竹山地区別計画推進委員会通信

今年度2回目の委員会を開催～今回のテーマは

第3期計画3年目・中間振り返り ～これからの竹山～



第3期緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」の竹山地区別計画を推進していくために、推進3年目・今年度第2回推進委員会が3月4日竹山ホールで開催されました。

今回は、第3期計画（H28～32）の3年目・中間年を迎えたことから、来年度からの次期4期計画策定に向けて、竹山地区別計画の各目標と取組の推進状況について全体の振り返りを行いました。その様子をご紹介します。



委員長 大谷竹山連合自治会長

「竹山のこれから」のまちづくりは、一部の役員だけではできない。一人ひとりの「ささえあい」が何より大切。大きな課題のひとつ「防災」については特にそう。隣近所、数人のささえあいが、少しずつつながって、竹山に暮らし続けたいと思っただけのような、大きな力になっていく。少子高齢化も著しいが、元気な高齢者もたくさんいる。若い人はもちろん、何歳になっても役割があって、活躍できるような機会・場づくりを今後も一緒に進めていきたい。

第3期（H28～32）竹山地区別計画の目標と取組

□ 目標1「ボランティアの取組を充実します」

- ⇒ 竹山ボランティアセンターの活動充実・PR強化
- ⇒ ボランティアの参加者を増やす工夫、仕組みづくり など

□ 目標2「知りたい情報をわかりやすく伝えていきます」

- ⇒ ホームページや広報紙での活動紹介、竹山の魅力PR強化
- ⇒ 「防災ささえ愛カード」の取組を通じた、平時・緊急時の見守り・連絡体制検討 など

□ 目標3「世代間・活動団体間の交流を進めます」

- ⇒ 美化活動、竹山池などの魅力を活かした、多世代で参加できるイベント開催
- ⇒ 課外授業などを通じた小学校との連携強化

「みどりのわ・ささえ愛プラン」は、誰もが身近な地域で安心して暮らし続けられる緑区を目指していくために、区民、事業所、地域ケアプラザ、社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む計画です。緑区では11連合自治会ごとに「地区別計画」を策定・推進し、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでいます。詳しくHPや右記PR動画等からご覧ください。



(裏面に続く)

3つの目標にあわせたグループごとに分かれて、できた・できなかった・現状維持
・見直しが必要の4つの評価軸から確認していきました。～意見交換の一部をご紹介します～



青木 竹山三丁目自治会長

1グループ 目標1
「ボランティアの取組を充実します」

「竹山ボランティアセンター」、みなさんは行ったことありますか？大変な思いで管理運営して、地域のささえあいの機能を担っている。PR・支援する人を増やせないかが、引き続き課題。もっと『得意なこと』で人材を集めることできたいいのではないか。よろず便利屋のような存在になれば。のぼりや領収書の裏に活動紹介を掲載するなど、PRも単独より、各自治会との連携を模索していきたい。

高齢化で、これまで支えてくださっていた人たちも思っていた以上に抜けざるを得ない状態になっている。現在、自治会活動の中心は70歳以上。若い人を入れることも必要だが、いくつになっても元気で活躍できる人が、少しでも長く続けられる仕組みを考えていく方が効率がいいのではないかと。みんなのボラセンを目指して、社協だけではなく、自治会としてもがんばっていききたい。

情報の発信は定例のものと、タイムリーなものどちらも大事。地区社協HP活用、年間スケジュール共有、紙媒体の継続、連合だよりの写真や文字の大きさの工夫等を重ねてきている。

4年振りに更新中の『防災ささえ愛カード』。回収率は約70%。引継ぎや個人情報の管理も問題だが、同意してくれた人には連合自治会と民生委員で共有して見守りもしている。

自治会役員の負担軽減は最大の悩み。役員をやりたくなくて自治会を脱げてしまう人も。効率的・持続的な活動にしていけるための見直しの時期にきているように感じる。



太田 竹山連合自治会事務局長

2グループ 目標2
「知りたい情報をわかりやすく伝えていきます」



小野寺 竹山地区社協事務局長

3グループ 目標3
「世代間・活動団体間の交流を進めます」

美化活動は充実し、幼稚園や小学生と公園愛護会での花植活動等も続いている。小学校のアンケートでも、竹山小の児童は地域行事に参加している率が高い様子。安全、安心してまちの行事に参加できている点は素晴らしい。一方で、各自治会等で行事が細分化して参加者も分散してしまう面もありそう。まとめた企画・運営に転換していくことも要検討。

池活など、池を使った課外授業や環境を学ぶことができているのはうまくいっている。このまま続けていってほしい。「ふれあいさろん竹多久」は、入場料などの料金体系の見直しの工夫や新規の取り込みも必要。桜、池もきれいに見えて季節感を味わうことができる魅力もある一方で、このままでは地域の交わりが少なくなってしまうので、皆で集まっているいろいろなことに取り組みるといい。

今回の中間振り返りをもとに次年度からは、次期計画の策定も進んでいきます。竹山地区の少し先の福祉保健課題を見据えて、いまできること、必要なことを見直し、計画を推進していきます

穏やかに、ゆるやかに。続いています。カフェぶらり。

認知症になっても安心して暮らし続けられるまちづくり

竹山地区社協が中心になって、認知症の方をはじめ地域の方ならどなたでも集まって情報交換等ができる場として「ふれあいさろん竹多久」で、2か月に1度程度、日曜日に開催中です。詳しくは、階段の掲示板や竹山地区社協HP等でもご案内しています。



<みどりのわ・ささえ愛プラン・竹山地区別計画推進委員会構成団体等>

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、小学校、保育園 等 計27名